

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0792610016		
法人名	社会福祉法人 啓和会		
事業所名	グループホームあじさい		
所在地	福島県河沼郡湯川村大字浜崎字城東1589-1		
自己評価作成日	平成30年11月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉ネットワーク
所在地	〒974-8232 福島県いわき市錦町大島2番地
訪問調査日	平成30年12月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の方との関わりを持ち、馴染みの関係性が継続でき、毎日楽しく、住み慣れた地域で生活できるよう支援しています。又、利用者様やご家族が求めている事や、思いに添えるように施設サービス計画を立て、個性を重視したケアに力を入れています。認知症高齢者の理解についても、事業所内で話し合う機会を常に持ち、気持ちを理解することに努め、利用者様本位での介護の提供を心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地区公民館のレクリエーションを活用し、利用者の身体的機能の維持に努めると共に馴染みの住民との交流を図っている。また、行政や住民と連携した認知症カフェの運営を推進、住民のボランティアによる慰問や除草などの奉仕活動を受け入れるなど、事業所は地域と密着した運営を積極的に行っている。
法人は職員要望を受けて有給休暇の他に職員の誕生日に休日を提供するリフレッシュ休暇を導入し、職員の意欲を引き出すなど法人と管理者、職員は利用者支援に連携して取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「利用者様が笑顔で心身ともに穏やかに過ごせるよう心に寄り添った言葉がけをします」という理念を念頭に、利用者様との関わり合いの中で確認し合いながら日々のケアに努めている。	年度初めに職員全員で話し合い、利用者者に添う支援を理念を分かりやすいものに作成している。毎朝の申し送りや毎月の職員会議で話し合い、反省することで、職員の気づきを引き出し、実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域ボランティアの方に年5回訪問して頂いている。近所の方から野菜を頂いたり、地域の方に敷地内の草刈りを行って頂いている。また町内会に加入し、施設内の行事等に参加して頂いている。	町内会に加入し、月2回行われる公民館主催の体づくりや演芸などの企画行事に積極的に参加している。住民も野菜を差し入れたり事業所主催の七夕や夏祭りに参加し、事業所内の草むしりを行うなど交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	気軽に話せるような関係づくりを行い、認知症の理解に努めている。又、電話や面会時、ホームの見学時に相談や説明をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営状況や、困りごとなどを会議の中で報告し、意見を頂いている。又、現状についてもお話しし、メンバーの方には理解して頂いている。	利用者の状態や運営について報告し、今後の予定について話し合っている。認知症カフェへの参加呼びかけ方法や自治体広報紙の利活用、利用者のかかりつけ医の変更などについてのアドバイスを参考に、実践に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で相談したり、今年から始まった地域ケア会議で得た情報を持ち帰り、施設の改善に活かせるよう実践している。	行政担当者と利用者の状態や事業所の現況について定期的に、また、必要に応じて話し合っている。歯の弱くなった利用者についても行政担当者が相談に入り、訪問歯科診療とするなど、緊密な連携が取れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止委員会を定期的に行っており、不適切なケアになっていないか、職員が皆で振り返りながら話し合う事で気づきとなり、適切なケアに努めている。	法人主催の年2回の研修会に参加し、報告して内容を共有している。事業所内では3ヶ月毎に身体拘束防止委員会を開催し、法人テキストを参考に、身体拘束防止について学んでいる。スピーチロックにならないよう、感謝の気持ちを込めた言葉遣いを心がけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修への参加や、職員同士コミュニケーションを取りストレスを溜めない職場作りを心掛けると共に、良くないと思うケアの段階でお互いに注意し合ったり、会議で話し合いをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在制度を利用される方はいないが、利用する為に必要な知識や連携方法などを職員全体で理解できるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際だけでなく、疑問がある場合には、いつでも十分な説明を行い、納得して頂けるようお話ししている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様とは日々の関わりの中で思いや要望を引き出すよう努めている。ご家族には定期的に日頃の様子をお伝えしている。面会や受診時、または電話等に気兼ねなく話して頂けるよう心掛けている。	利用者からは日常生活の中で直接、家族からは来訪時や電話する機会毎に聞いている。トイレが近くなった利用者が腰を痛め、家族の要望でトイレ近くの部屋に居室に移動したり、口腔治療の要請に訪問歯科で治療するなど運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は定期的に施設を訪問し行事や、会議等に参加したり、利用者様とコミュニケーションに努めている。又、職員の働く環境を確認し、意見の反映や、質の確保を図っている。管理者は職員からの意見を考慮しながら勤務を組んでいる。	管理者は日々の支援や職員会議の中で職員意見や提案を聞く機会を持っている。代表者は管理者からの報告やアンケート、人事考課などを通じて要望を把握している。今年度から要望に応え、職員誕生日にリフレッシュ休暇を導入するなど意見を反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を年に2回行い、自己評価や上司評価を参考に給与等に反映させている。また職員からの意見を聞く機会を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に事業所内研修や外部研修に参加している。職員の力量や今後の目標に合わせて参加が出来る様考慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内で月に1回管理者会議を行い、困りごとや各施設の情報の共有を行っている。又、開催場所を変えながら行い、各施設を見学することで良いところ等を取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の実態調査や関係者から生活習慣などの情報を収集し、本人と会話等を通して関わりを持ちながら少しずつ信頼関係を築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前にご家族の不安・困っている事や思いに耳を傾け、意向を確認した上で、支援方法等を話し合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを基に、本人に必要な支援を見極め、必要に応じて他のサービス利用も視野に入れた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様から野菜の作り方や生活の知恵などを教えて頂きながら一緒に行っている。なるべく利用者様の得意な事や、楽しめる方法なども取り入れながら行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の希望があれば、本人の体調によって、いつでも外出、外泊の機会を持っていただけるよう支援している。特別な行事にはご家族の方にも参加して頂き、一緒にお祝いをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や友人、地域の馴染みの方に来訪して頂けるよう支援している。又、地域のイベントにも定期的に参加し、関係が途切れないようにしている。	来訪者にはくつろげるように居室や応接セット、多目的和室などに案内し、利用者の近況を紹介したり、お茶を出して話が弾むようにしている。帰りには玄関先まで見送り、来訪を要請している。地域主催のゲームや運動に参加して住民との交流継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を把握し、見守りながら孤立することがないように、介助や声掛けを行い、関わりが継続できるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も必要に応じて、相談を受けたり、可能な範囲で支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の表情や言動の変化に注意して観察を行い、寄り添うことで本人の意向を汲み取り、可能な範囲で支援を行っている。またご家族と話す機会を作り、意見や要望を把握するよう努めている。	殆どの利用者は職員との会話で希望や意向を伝えることが出来ている。困難なケースでは一緒に話したり歌を歌うなど行動を共にし、表情などの状態変化を把握し、家族と相談して方針を確認しながら本人本位になるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様の状態を把握しニーズに応えられるよう、お茶の時間や食事、レクリエーション等の日々の生活の中でコミュニケーションを図り、暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活を観察し変化がある場合は介護記録や日誌に記入し、申し送り時にも報告し合い、常に情報を共有し現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリング表を用いて、毎日利用者様の状態を把握している。介護計画は定期的・必要時見直し、職員全員が計画に基づき個別対応に努めている。居室を担当制にすることで、より細やかな配慮ができるよう心掛けている。	入居時は本人家族の希望や医師の意見などを参考に計画を立て、1週間毎に見直しをしている。定期的見直しでは経過観察の記録を元に職員の気づきを参考に、家族や医師の意見を含めて計画を見直ししている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常のケアについては、毎日の申し送りや、職員会議で話し合い、その都度実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院介助、美容室、買い物等家族対応が難しい場合は必要に応じて支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で行っている行事(文化祭)や地域の集まり(すこやか浜崎)に積極的に参加している。又、地域のボランティア慰問を毎月受け入れている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様の状態を伺いながら、ご家族も交えて意向を確認し、必要時はかかりつけ医や協力医療機関へ同行し、状態の報告や相談を行うよう努めている。	利用者家族にはかかりつけ医の継続受診を説明している。家族同行を基本に、要望に応え、職員が同行しての受診を行っている。家族同行の場合は家族から結果を報告を受け情報を共有している。職員同行の場合では電話と手紙で報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態変化や異常があれば速やかに医療機関に相談、指示を仰ぎ、受診をしている。常に状態の変化や異常の早期発見に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関等と連携し、早期の段階から情報を共有し、相談を重ね適切に対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療機関との連携が整えば、看取りまで取り組む方向ではあるが、現在では施設で可能な範囲で対応を行っている。	入居時に事業所が出来ること、出来ないことを説明している。また、食事や水が摂れない、日常生活が困難になったなど利用者の状態が変化する毎に、入院か施設の移動か家族と相談して支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修にて救命講習や事故発生時の対応について学ぶ機会がある。又、急変時の対応方法についても定期的に職員全員で話し合う機会を持ち確認し合っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月避難訓練を実施するとともに、地域の方に協力して頂けるように、日ごろからなじみの関係が出来るよう努めている。	避難訓練は毎月実施している。火災発生地点は毎回変更している。年1回は消防署員立ち会いで行われ、夜間を想定し、通報、避難、消火の各訓練を実施している。水や食料は1週間分を備蓄し、定期的に更新している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	誇りやプライドを損ねないよう配慮した言葉かけを心掛けている。また職員同士の会話の中でも配慮している。職員会議でも尊厳に関する話し合いをして、意識付けに努めている。	呼びかけは、名前にさん付けで、会話は明るい声で、利用者が自信を持てるような内容の話をするように努めている。居室へは失礼します、と声掛け、ノックをして入室している。法人は、接遇やマナーの新人研修や実務研修を年間で実施し、向上に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中でコミュニケーションを取りながら、本人の希望や思いに耳を傾け、少しでも本人の希望に添えるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常の作業やレクリエーションは利用者様の気持ちや状態に応じて参加して頂いている。天気の良い日は散歩など希望に合わせた対応を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の買い物や利用者様の馴染みの美容院へ外出支援等を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下ごしらえやテーブル拭き、食器拭きなど利用者様と一緒に会話をしながら楽しく行うよう心掛けている。季節に合わせた献立を立て、誕生会などご家族も交えて会食等の機会を作っている。	夜勤者が利用者の誕生日や季節行事を考慮しながら、1週間のメニューを作成している。誕生日メニューは利用者の要望を聞き、応えている。おやつもサツマイモや草団子など全員で作って楽しんでいる。正月や七夕、敬老会には季節に添った食事を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人1人の食事量を考慮し提供するよう心掛けている。水分摂取量の少ない利用者様には、栄養や水分摂取が大切な意味をお話しながら摂取を促している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者様の状態に合わせた口腔ケアの介助を行っている。その際歯磨きやうがい、消毒など声掛けしながら支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を大切にしている。排泄チェック表を利用し排泄のリズムや排泄能力に応じた声掛けや誘導を行っている。	トイレでの排泄を目指して支援している。そのため体操や食事、入浴の前後や排泄のリズムを作るため、排泄チェック表を参考に、失敗しないよう間隔を整えている。トイレにはさりげない声掛けをして誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者様の排便状況に応じて食事や水分調整、運動等で生活リズムを整えている。整腸剤や下剤等を使用している方の量や状態をチェック表にて把握している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調を考慮しているが、ほとんどの利用者様に毎日入浴して頂いている。快適に楽しく入浴できるような会話や声掛けを心掛けている。	毎日、希望の時間に入浴することが出来る態勢を整えている。柚子湯や好みの入浴剤を使用し、利用者が入浴を楽しんだり、職員が話しかけて、くつろげれるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入眠しやすい環境を整え個々に合わせたペースで自由に休んでもらうように支援している。又、利用者様の気分に合わせて、休息の場を提供できるように心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	体調に変化があった場合や薬の変更時は特に注意しながら観察し、記録に残している。医療機関との連携を取りながら服薬する量が減るよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	野菜の皮むき、掃除、裁縫、野菜作り、洗濯物たたみ等利用者様に合わせた役割を持って頂いている。又、ゲームをしたり塗り絵や計算問題、歌などを歌って気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日頃から、ご家族と自宅に外出・外泊出来るよう声掛けや調整をしている。天候に合わせて季節の花やお祭りの太鼓台の見学等を散歩をしながら行っている。。	散歩は天候に合わせ、日常的に行っている。少人数や大勢で、車いすでの散歩も支援している。ウッドデッキでお茶会をしながら日光浴や外気浴も楽しんでいる。花見や花菖蒲見学、紅葉狩りにも出掛け、家族の協力で外泊も支援もしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族より現金を預かり、買い物への付き添いや支払いの支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は利用者様から希望があればいつでも使用できる。会話が難しい場合は職員が伝達するなどして、ご家族との関係性の継続に努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内中央に和の空間を設け、コタツを囲んで利用者様が集まりコミュニケーションの取れる場を提供している。団子さし、七夕、鏡餅作りなど皆さんと手作りし季節を感じて頂いている。	日光が出ると寒暖差が生じるので利用者が快適に過ごせるように温度と湿度の管理には注意している。採光にもカーテンで調整している。共用空間は鯉のぼりや紅葉など年中行事を描いた文化祭出展作品が飾られ、居心地の良い雰囲気づくりを行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	カウンター席と和室を有しており、それぞれに思い思いの場所で寛いでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている。(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている。	写真や手作りの作品を飾ったり、落ち着いた空間であるよう心掛け、利用者様にとって居心地が良く安心して生活できるよう配慮している。	利用者は居室に時計やカレンダーを持ち込み、壁には家族写真を貼り、本人が居心地良い部屋づくりを行っている。夜間には居室入り口に利用者の状況を記入したネームプレートを置き、火災など緊急時に首にかけて避難出来るよう、安全に配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はすべてバリアフリーとなっており、手すりなどホール内を安全に移動できるようになっている。又、トイレなどには目印等を貼り、わかりやすいように工夫している。		